

平沼淑郎

ひらぬま

經濟史學者、法學博士。文久四年二月七日美作國津

山城下南新宮庄生れ、昭和十三年八月十四日歿（八六—一九三）。字吾一。

號洋堂、洋堂學人、瀧野野人、鶴庭家（舎）、鶴峯、よしや等。明治

十七年東京大學文學部政治學部理財學科卒。暫時丸山洋樂生半の忠愛社

に入り『明治日報』編輯。のち岡山、宮城、大阪の教職等を経く、四

十四年早稻田大學教授。昭和五年社會經濟史學會創設に參劃、翌年ま

ご理事代表（會長）を務めた。また「人口論」紹介の嚆矢となつた、

『通言經濟學』（明治二十五年刊）を著し、晩年力を傾注した。『寺院

門前町の研究』（昭和二十二年刊）は歿後出版せられた。一方漢詩を

能くし書ひも秀れた。平沼謙一郎の兄。

著書はせい『通言三國宮制』（内藤泰五合纂、明治十九年三月十五日

由發社）、『舌のまことへの先』（大正四年五月一日榮文館書店）、

『社會思想及社會組織の研究』（大正八年八月一日日新閣）、『明治

戊辰思想録』（三字雄二郎・川合貞一・市島謙吉合著、昭和二年七月

二十日博文館協會編輯）『文藝協會』（エーダ）（等）。『平沼淑郎博士生

誕百年記念論議』（早稻田大學經濟史學會公編、昭和二十九年十一月十四

日早稻田大學第一商學部）があらむ。

